

## 荒武者キートン (1923)

OUR HOSPITALITY

メディア 映画  
ジャンル コメディ  
製作国 アメリカ  
色彩 B&W  
時間 67分  
初公開日 1925/12  
公開情報 劇場公開  
リバイバル 1979/12 [フランス映画社]

## 【解説】

1810年、隣同士のキャンフィールドとマッケイ家の相克は、遂に当主同士の相撃ちで倒れるという悲劇を生んだ。争いのむなしさを憐んだマッケイ夫人は幼い息子ウィリーを連れNYの伯母を頼った。が、キャンフィールドの弟は子々孫々までの復讐を誓うのだった。それから10数年が経ち、既に母を亡くした成長したウィリーの許に父の遺産相続の報せ。彼は田舎の豪華な邸宅を思い浮かべ、即座に故郷への旅を決意。伯母から、くれぐれもキャンフィールドに気をつけろ、と言い聞かされて、長距離特急の旅客となるが、これが犬の走るのより遅いしろもので、レールは上下にくねって、脱線して土の上を走った方が快適だったーという具合。この困難な鉄路の旅で席を隣り合わせて、親しくなった娘に夕食に招かれたウィリーだが、彼女こそ宿敵キャンフィールドの愛娘だったから、さあ大変。一家の男たちはウィリーが一步邸外へ出たら早速撃ち殺してくれようと示し合わせ、彼は屋敷を去るに去られずしばらく滞在するうち、娘とますます親しくなり、いよいよ身の危険を感じ、女装して逃げ出すが……。この後の崖や滝を使ってのクライマックスのアクションはまさしく命がけ、手に汗を握られる。しかし、いざ父親の残した土地に行ってみるとみすぼらしい掘っ立て小屋が建っているきりで、夢想した豪邸が文字通り吹っ飛ぶ前段のギャグは、画期的なおかしさで、タイミングが絶妙にいい。キートン気合いの初長編は全く見事な出来栄えだった。

## 【クレジット】

監督	バスター・キートン	Buster Keaton
協同監督	ジョン・G・ブリストーン	John G. Blystone
製作	バスター・キートン	Buster Keaton
脚本	クライド・ブラックマン ジャン・ハベッツ ジョゼフ・ミッチェル	Clyde Bruckman
撮影	ユージン・レスリー ゴードン・ジェニングス	Gordon Jennings
出演	バスター・キートン ジョー・ロバーツ ナタリー・タルマッジ ジョセフ・キートン	Buster Keaton Joe Roberts Natalie Talmadge